

箕島球友会が全国切符

クラブ選手権 西近畿予選

◇準決勝
NOMO

0012000000
0000120000
2 2
1x 0
6 5

箕島球友会

(延長12回タイブレーク)

◇決勝

0000000000
0001000000
箕島球友会



全国へ闘志を燃やす箕島球友会ナイン

第38回全日本クラブ野球選手権大会西近畿予選が6日、兵庫県西宮市の大阪ガス今津総合グラウンドで行われ、箕島球友会が優勝。本大会

への出場切符をつかんだ。

和歌山、大阪、兵庫の強豪4チームがトーナメントで対戦。初戦で箕島は、NOMOベースボールクラブと対戦した。3点を追う箕島は、5回に相手失策で1点を返し、6回には無死満塁から水田の右翼へ運ぶ2塁打で2点を加え、同点とした。延長に入った11回は、両チー

ムが2点ずつを挙げ、一步も譲らない接戦は12回、規則によりタイブレークとなった。相手の攻撃を霧封した箕島は、1死満塁で再び水田が中前適時打を放ち、激戦を制した。関西メディカルと顔を合わせた決勝は、箕島・三宅悠、関西・松本の息詰まる投手戦を展開。両チームともに走者は出すものの、両投手が要所を締め、零行進が続いた。箕島は

4回、山下の左翼線を抜く2塁打を足掛かりに、2死3塁と攻め、福田の当たりが相手内野手の失策を誘う間に、待望の1点を先取した。三宅悠は、速球を折りまげながら巧みなマウンドさばきで、6安打を許しながらも関西打線を完封。わずかな好機を生かすか、得点に結び付けた箕島打線の勝負強さと三宅悠の気迫が、関西に反撃の機会を与えず1点のリードを守り切った。



苦しい試合を勝ち抜き大感激

今季の箕島は、三宅悠をはじめ救援の宮迫、新人の山田、復活が期待される黒川と多彩な投手陣を軸とする守備型のチームだが、俊足ぞろいの攻撃陣は機動力を生かし、どこからでも得点を狙える打線は見逃せない。全日本クラブ野球選手権大会は、9月6日から埼玉・西武ドームで開催され、優勝を目指す箕島の戦いが注目される。箕島球友会の西川監督は「苦しい試合を勝ち上がり、優勝の感激もひとしおだが、接戦の中でも全国へ行きたいという選手たちの気持ち

が、相手よりも勝ったと思う。本大会では優勝、その先の日本選手権の出場を目指すに、全力で臨みたい」と意欲を見せた。

ムが2点ずつを挙げ、一步も譲らない接戦は12回、規則によりタイブレークとなった。相手の攻撃を霧封した箕島は、1死満塁で再び水田が中前適時打を放ち、激戦を制した。関西メディカルと顔を合わせた決勝は、箕島・三宅悠、関西・松本の息詰まる投手戦を展開。両チームともに走者は出すものの、両投手が要所を締め、零行進が続いた。箕島は